修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　黒田武信
〒102-0074
東京都千代田区九段南
2－6－8九段南ビル
☎03（5275）6651
http://shugakuryoko.com
e-mail shuryo@h2.dion.ne.jp

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団です。

# 関修委、東海修委でJRとの意見交換会を開催

## 修学旅行の重要性と安全確保を双方で確認

関修委（関東地区公立中学校修学旅行委員会）と東海修委（東海三県中学校修学旅行委員会）では、それぞれ10月17日東京と名古屋で定例の修学旅行委員会を開催し、その席上、関修委はJR東日本とJR東海、東海修委はJR東海と本年度の連合体列車の総括及び平成16年度の連合体列車運行についての意見交換会を実施した。

今回の意見交換会で特に取り上げられた課題は、①乗降駅での安全確保、②車内での生徒指導・マナー、③平成15年秋に予定されている東海道新幹線品川駅開業によるダイヤ改正の動向、④関修委における東海道新幹線との継走列車の座席確保と料金割引要請であった。

全修協（財団法人全国修学旅行研究協会）と各修学旅行委員会では、JR各社との意見交換会に先立ち、去る9月27日、JR東日本に、継走列車の座席確保と料金割引要請を陳情、また、10月1日、東海旅客鉄道株式会社に、品川駅開業後も関修委の連合体列車については東京駅での新幹線乗降継続を要請した。一方、東海修委においても、JR東海より修学旅行生の安全確保と快適な旅を実施するための名古屋駅での団体集合・解散、駅内の移動、イホームでの整列等についての協力要請を受けており、それらの課題を踏まえて、意見交換会は活発に展開された。

その結果、修学旅行委員会とJR各社は、共に修学旅行の重要性と快適で安全な修学旅行列車の運行を再確認し、これからも協力して円滑な業務を推進することとした。

意見交換会の要旨は以下の通り。

### 〈関修委とJR東日本・JR東海との意見交換会〉

**□JR側の出席者**

JR東海：青山秀樹（本社営業部）、高橋敏也（同）、鈴木　豊（新幹線鉄道事業本部）

JR東日本：深見真悟（本社営業部）、金子彰夫（東京支社）、菱山　実（同）、有坂義明（高崎支社）、山中保男（大宮支社）、江尻道男（水戸支社）、石井　透（千葉支社）

**1．東海道新幹線について**

○ダイヤ改正・品川駅開業について

・平成15年10月頃にダイヤ改正し新幹線品川駅開業を予定。全修協からの要望事項は関係部署に伝え検討している。

○新横浜乗車について

・品川駅の利用利便地区によって変わる可能性もあるが、品川・新横浜の使い分けの中で検討する。

○連合体運転開始日について

・ゴールデンウィーク、夏休み期間は除き、現在の運転開始日を後ろにずらすことは可能。

○品川駅始発について

・各連合体の利便性を考慮し検討する。

○Cコース7時台出発をAコースの時間に近づけるとか、定期列車の車両半分を修学旅行専用にすることの可能性について

・現在、目一杯の運行状況の中で受入れできない。

○土日であれば増やすことの可能性について

・土日といえどもビジネス客にかわり観光等で混む。ピーク時（8～9時台）を避ければ、研究・検討は可能で新しい提案ができる。例えば、Cコースの時間帯をAコースの時間帯に近づけるなどの研究検討は可能。

○サービス向上について

・社内放送による沿線案内等は車掌の職務ではなくできない。但し、事前に申し出があり、先生による放送であれば放送設備の使用は可能。車内放送は全車両一斉放送のため学校間の調整が必要となる。

**2．東北・上越新幹線、常磐線他継走臨について**

○東北方面の連合体について

・要望があれば新コースの設定も可能。

○継走臨の特急料金割引について

・8時～10時台は80％以上の利用で満員の状態、自由席対応でやっており受け入れのキャパシティがない。土日（20～30％の利用）利用であれば前向きに検討する。常磐線は、7時台及び11時以降東京着であれば前向きな検討は可能。

○熊谷駅からの土日利用は可能か。

・可能だが、土日は運休列車、通過列車対応があるため本数が少ない。土日ダイヤで時間帯があえば利用は可能。

○群馬県で7時台上越新幹線を利用の場合、割引の余地はあるのか。

・具体的な要望のボリュームが知りたい。その上で検討する。

○継走列車は座席の確保が出来れば、割引が出来るのか。

・座席確保ができれば割引は可能。

○常磐線復路の臨時列車の設定について

・継走列車は全列車特急タイプで対応している。ぜひ、往復共JRを利用してほしい。

○座席確保の改善について

・現在の時間帯での継走臨の座席確保は困難。

○その他

・輸送申込後、間際での帰路バス利用への変更が多い。

・外房、内房、成田、総武各線において100名程度の利用は可能。

### 〈東海修委とJR東海との意見交換会〉

東海修委での意見交換会には、JR東海だけでなく、修学旅行取扱いの主要旅行会社も同席し、本年度の修学旅行列車運行についての反省と、今後の対応について活発な討議をした。

**○学校側の意見・対応**

・学校、JR、旅行会社それぞれの役割をきちんと把握をしておく必要がある

・添乗員に全てを任せてはいけない。教員は常に引率責任を負っていることを認識しておく。

・東海修委の決定内容を各学校に周知する方法について一考する必要がある。（集合場所・時刻の徹底、行動中のマナー指導等）文書化によって徹底を図る。

・喫煙車両を利用しない方向でその対応についてさらに検討する。

・教育性、安全性、経済性から学校の役割と指導について一層検討する。

**○旅行会社側の意見・対応**

・添乗員の配慮不足から事故を招いたことは、大変遺憾である。今後社員教育を徹底していきたい。（持ち込み弁当の処理、間食のゴミ始末、下車時の車内点検等）

・喫煙問題については、常に話題になりながら解決を見ていない。何か一つ実行に移せることを考え一歩ずつ前に進めるといいのではないか。前もって修学旅行生が喫煙車両に乗り合わせていることが分かっている時は、一般客に対して「喫煙をご遠慮ください」というアナウンスをするといった方向性を考えて欲しい。

**○JR側の意見・対応**

各学校に対し集合場所、座席割付等について、東海修委および旅行会社を通じて十分な理解をしていただく努力をして欲しい。

・JR東海から東海修委への要望について周知徹底を図ることを期待する。

修学旅行での異文化理解の学校交流（岩手県釜石市立甲子中学校）

## 風紋

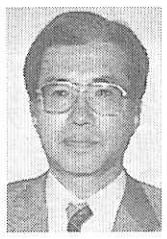
「小倉山峰のもみぢば心あらばいまひとたびのみゆき待たなむ」

藤原忠平の紅葉賛歌である。小倉山、そして大堰川を隔てた嵐山は、王朝時代から紅葉の名所として知られた。小倉山をこよなく愛でた藤原定家はそこに山荘を建て、小倉百人一首を編んだ▼「紅葉の錦をきてかえる嵐の山の秋の暮」（太平記）。小倉山・嵐山を含む嵯峨野一帯は、十一月ともなれば、紅葉を求める人々で溢れる。交通渋滞を解消するために、京都市では、十六・十七の両日、観光客が途中でマイカーから鉄道に乗り換えて移動するというパークアンドライドをはじめて実施する。京福電鉄も北野白梅町～嵐山間で十・十一月の土・日・祝日に直通列車を運行して乗客の便宜をはかるという▼三脚・一脚お断り。宝筐院の入口の掲示は、カメラの砲列から庭園を守るためのものだ。嵯峨野の中でも特に見事な紅葉で人々を魅了する宝筐院には、足利二代将軍義詮の墓と楠木正行の首塚が恩讐を超えて並ぶ。夢想国師の高弟黙庵禅師に帰依した義詮が、正行の心意気に感動して遺言したことによる▼嵯峨野の体験学習では、紅葉とともに、歴史上の人物の心の風景を探求してみてはどうだろうか。

教育の窓

# 読書のすすめ

東京農業大学教授
元文部省主任視学官
渡部邦雄



**一　読書環境の崩壊**

子どもたちは、いつ頃から本を読まなくなったのだろうか。

思うに、テレビ、マンガ、ビデオをはじめ、刺激的なゲームソフトが現れるなど、情報メディアの驚異的発達と普及により、彼らの日常生活のリズムが大きく変えられた時期と一致するのではないかと思われる。

スピードが物を言う時代になり、ゆっくりと時間をかけて過ごすことにあまり意味を認めない社会背景が、そのことに一層拍車をかけてきたのではないか。

今日では、直接的、刺激的で大量の情報をはじめ、安直で入手可能な有害情報、受け手の意思にかかわらず一方的に送り込まれる情報など、我々の五感を強く刺激し、ストレートな形で我々に作用する情報が多くなってきている。

このような日々の生活環境の中では、大人たちでさえ一定のボリュームを持つ書籍や活字情報をじっくりと読む習慣は定着しにくくなっている。まして子ども達においておやである。

読書環境が崩れてきているのだ。

**二　読書離れ**

ある調査（国会報告資料、平成十三年五月）によれば、一ヶ月の平均読書冊数は、小学校で六・二冊、中学校で二・一冊、高等学校で一・一冊であった。

一ヶ月に一冊も読まなかった児童生徒の割合は、小学校で十・五％、中学校で四十三・七％、高等学校で六十七％にもなっている。

さらには、経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）の生徒の学習到達度調査（平成十二年）では、「趣味としての読書はしない」生徒は、ＯＥＣＤ平均は三十一・七％だが、日本は五十五％となっている。

また「どうしても読まなければならないときしか、本は読まない」生徒は、ＯＥＣＤ平均は十二・六％であるが、日本では二十二％となっている。

本の種類や内容にもよるが、これらの調査結果もまた、子どもたちの読書離れを如実に物語っている。大の大人が、通勤電車の中で、コミックマンガなどに、夢中になっている様子を見るにつけ、これも読書の一種なのだろうと、諦めてしまいそうになる。

大人が活字離れ、読書離れの先頭を切っているのである。

読書は、紙面の一文字一文字を目で確かめ、その文脈から作者・著者の主張や意図、構想などを理解したり、推察、想像したり、共感、共鳴、時には反発したりするなどして、自らの精神的栄養剤として、自己形成に役立てていくものであろう。

活字文化から遠のいていく若者の増加に対して、私達、教育関係者は、危機感を共有し、その対応策を真剣に考えていく必要があろう。

**三　読書活動の大切さ**

読書活動は、子ども達が日本語という言葉を学び、思考力、判断力、表現力、創造力を培い、感性を磨き、豊かな人間性を形成していく上で不可欠なものである。

各人が知性や感性を磨き、教養を高める上で、読書ほど有効な手段を他に知らない。

幼少期からの読書習慣は、成人してからも継続し、深みのある読書を可能にする。

そのため、小さい頃から家庭における読み聞かせをはじめ、学校における読書の時間設定や感想発表などの機会を設け、読書に親しみ、読書の楽しさを知り、進んで読書する態度を育成する必要がある。学校図書館の整備充実、活用も不可欠だ。

読書を通して、物の見方、考え方を広げ、豊かな感性を育みたいものである。

---

修学旅行実施事例紹介 30

# ―異文化理解の学校交流―

釜石市立甲子中学校

**1．学校所在地**
釜石市立甲子中学校（中村好伸校長）
〒026―0055
岩手県釜石市甲子町第9地割156
Tel 0193-23-6520

**2．旅行期日・人員**
旅行期日：平成14年4月18日(木)～4月21日(日)（3泊4日）
旅行先：東京都内、東京ディズニーランド
人員：第3学年生徒44名

**3．修学旅行のポイント**
〈特色ある取り組み〉
◎東京中華学校（東京都千代田区）との学校交流
◎班別自主研修時の企業・大使館訪問
そのほかミュージカル『ライオンキング』観劇など

**4．学習内容**
【学校訪問・交流会（行程第1日目）】
・挨拶、学校紹介
・レクリエーション
・郷土芸能『虎舞』披露
・感想

東京中華学校での学校交流

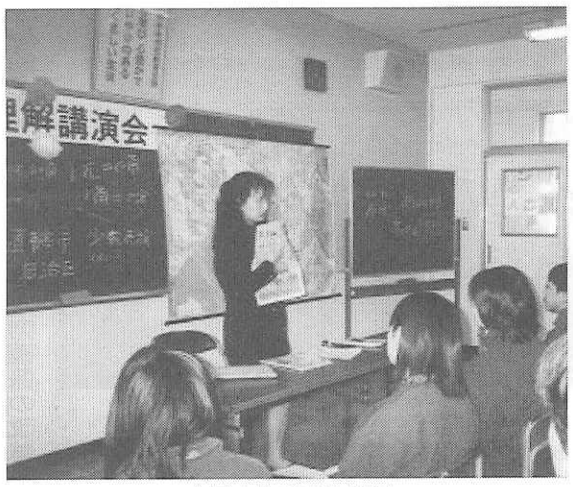
甲子中学校で取り組まれている郷土の伝統芸能『虎舞』を披露。東京中華学校からは御礼として中等部の生徒達による『竜舞』の実演があった。

また、5～6名ずつのグループ毎に分かれて歓談を行った。

※交流会の感想（抜粋）

『レク（リエーション）では、最初は少し消極的だったものの、相手の方がとても積極的だったので、自分の心の中にあった「恥ずかしさ」が消えていき、とても楽しく交流できた。』『初めは外国人という大きな壁をのり越えての交流をできるかどうか不安でした。～…でもレクリエーションの時、おろおろしている私達に何度もかわるがわる女の子達が声をかけてくれました。次にやった各班の交流会でもみんな積極的に私達の質問に答えてくれました。日本語をあまり話せない子もわかる友達に聞いて一生懸命答えてくれました。』

（甲子中学校「修学旅行文集」より）



中国文化の事前学習

**5．事前・事後学習**
【班別自主研修／企業・大使館訪問（行程第2日目）】
東京都内で班別研修による企業及び大使館等の訪問を行った。
A-1．三越銀座店、ケニア大使館
A-2．日本銀行、マレーシア大使館
A-3．東急百貨店本店、ギニア共和国大使館
A-4．株式会社ロッテ、フィジー共和国大使館
B-1．ソニーミュージックエンタテインメント、中華人民共和国大使館
B-2．国際ボランティアセンター、ポルトガル共和国大使館
B-3．港区保健所生活衛生センター、スウェーデン大使館
B-4．郵政省、大韓民国文化院

※企業・大使館訪問の感想（抜粋）

『自主研究先では、「国際理解」についてとても分かりやすく説明してくださったので世界の現状を知ることができました。』

『二日目の自主研修は、いろいろハプニングがあり到着時間に遅れ、みんなに迷惑をかけてしまいましたが、自分の中ではとても充実していて、思っていたより楽しくできました。ケニア大使館を訪問したときは全部英語で言わなければならなくて、とても不安でしたが班員全員で協力して乗り越えることができたのでよかったです。』

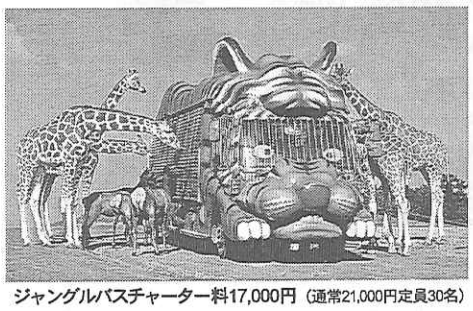
（甲子中学校「修学旅行文集」より）

◎事前学習：
①社会の授業を利用した中国、台湾の歴史を学習
②地元在住の中国人を招待して中国文化の講演会を実施

**6．各種情報（東京都）に関する問合せ先：**
東京都庁
Tel 03-5321-1111（代表）
URL http://www.metro.tokyo.jp/
社団法人東京コンベンション・ビジターズビューロー
Tel 03-5211-2171
URL http://www.tcvb.or.jp/jp/index.htm（「修学旅行ガイド」ページあり）

| 期　日 | 行　　程 |
|---|---|
| H14/4/18(木) | 北上―――上野＝＝＝東京中華学校＝＝＝ホテル(泊) |
| 4/19(金) | ホテル＝＝＝班別自主研修＝＝＝四季劇場（『ライオンキング』観劇）＝＝＝ホテル(泊) |
| 4/20(土) | ホテル＝＝＝日本未来科学館＝＝＝お台場＝＝＝東京ディズニーランド＝＝＝ホテル(泊) |
| 4/21(日) | ホテル＝＝＝東京タワー＝＝＝国会議事堂・皇居＝＝＝上野(選択コース：国立科学博物館、東京国立博物館ほか)＝＝＝上野―――北上 |

動物たちとふれあいながら楽しく学ぶ。
他では体験できないプログラムが充実！



ジャングルバスチャーター料17,000円（通常21,000円定員30名）

●入園受付時間
9：00～17：00（3月16日～11月15日）
9：30～16：00（11月16日～3月15日）
●修学旅行料金（消費税含む）
高校生 1,200円　中学生 900円　小学生 800円
※ガイドラジオ バス1台につき1,100円

文部科学省指定・博物館相当施設
九州自然動物公園
アフリカンサファリ
〒872-0722 大分県宇佐郡安心院町大字南畑
TEL(0978)48-2331　FAX(0978)48-2330
ホームページ http://www.africansafari.co.jp

古代文化邪馬台国ルート
壱岐へ…

魏志倭人伝に一支国の名で記されている。
古代大陸交流の要としてクニを構えていた壱岐。
イルカとの共生をはじめ自然とのふれ合いが出来る絶好の教育旅行の場としてお薦めします。

壱岐教育旅行受入協議会事務局
九州郵船
TEL（092）281-0831
FAX（092）281-0444
URL http://www.kyu-you.co.jp